

11月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 34.6km~41.62km
			管轄出張所:岡崎出張所
実施日	令和元年11月27日	実施区間	久澄橋~高橋

矢作川の白浜・千石公園地区は、平成30年度に、豊田市の「矢作川かわまちづくり計画」が登録され、「都市・地域再生等利用区域」が指定されました。愛護モニターも整備状況や利用状況等を中心にレポートしていきたいと思ひます。



国土交通省は、水辺を活かして地域の賑わい創出を目指す取組”かわまちづくり”を促進するため、平成21年度に「かわまちづくり」支援制度を創設し、市町村等からの申請にもとづき計画の登録を行い、ハード・ソフト両面から支援を行っている。平成29年度22箇所「かわまちづくり」計画を登され、全国で213箇所となった。

11月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 34.6km~41.62km
			管轄出張所:岡崎出張所
	令和元年11月27日	実施区間	久澄橋~高橋

令和元年11月27日  
矢作川かわまちづくりの整備状況のレポート(4)



かわまちづくりで、多くのワンドが作られている。しかし、この説明がなく、水辺のふれあいについての説明が必要である。



久澄橋下流のワンド。大分自然となじんで来た。



11月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川:左右岸 34.6km~41.62km
			管轄出張所:岡崎出張所
実施日	令和元年11月27日	実施区間	久澄橋~高橋



石割の鑿の跡

こみ も ど / は あと  
**拳母土場跡**

「拳母土場の図」 小笠原金次郎 画

発見!とよたの先人の足跡

「拳母土場の図」中の石割は、平成6年に久澄橋の工事が断り解体されるまで、当時のままの姿を残していました上の写真はその様子(平成6年撮影)。現在は、解体後に復元された石割で、橋の下で見ることができます。

矢作川は古くから物資の輸送に利用されてきました。運ばれた荷を陸あげし、船積みする場所を川添、土場とよびます。現在の久澄橋のもとには拳母の土場がありました。この場所は城下町に近く、物流の拠点として町の繁栄をささえました。船に積まれた上り荷は塩、酢、海産物など、下り荷は米、材木、炭、石材などでした。

川船輸送は昭和4年、上流に越戸ダムが建設され、さらに鉄道やトラック輸送が主流となり終わりを告げました。昭和46年に小笠原金次郎氏が描いた「拳母土場の図」は、帆をはる川船、筏を組んで材木を運ぶ様子、馬の背で荷物を運ぶ人などがよくわかります。

豊田市教育委員会

久澄橋下の拳母土場跡  
折角の川舟輸送の貴重な遺跡であるので、文化財として整備してほしい。

矢作川かわまちづくりもかなり整備されてきたが、最後の魂の入れ方に努力を。折角のワンドや河畔林の説明がないことや、拳母土場の文化財などの整備・説明がなされていないのは残念である。また、水辺アプローチのガイドが必要である。これだけ、素晴らしい資源があるので、もっと、市民に利用されるよう、最後の仕上げをお願いします。